

・巻頭言「春の訪れ」	1	・令和6年度(第37回)同窓会総会案内(予定)	5
宮城教育大学同窓会会長(学長) 村松 隆		・同窓会事業・会計・予算	6
・特集「同窓会総会&ホームカミングター報告」		令和4年度庶務・会計報告	
	2、3	令和5年度事業計画・予算	
堀籠智加枝	2	・今年度定年退職教員	7
千葉 清一	2	虎尾 裕	7
千葉 君子	3	水谷 好成	7
・ホームカミングター記念シンポジウム	4、5	・事務局だより	8
三塚 隆洋	4	・訃 報	8
本田 正晴	4	・編集後記	8
酒井 智紀	4		
加藤 凌空	5		
加藤 羽菜	5		

vol.
35

発行人：宮城教育大学同窓会
 仙台市青葉区荒巻字青葉149 会長 村松 隆
 令和6年3月26日発行 印刷：株式会社宮城友栄社

山にありて

題字・加藤豊仍名誉教授

春の訪れ

宮城教育大学同窓会会長(学長)

村松 隆



皆様、こんにちは。新型コロナウイルスに振り回された数年、皆様も大学サイドも長いトンネルの中を手探りで歩いて来ましたが、ようやく出口が見え始め、ほっといたしております。これまで学生は大学からの要請に真摯に応え、体調不良の際の授業欠席連絡や感染の場合の報告など、迅速で的確であり、これはやはり教員をめざす学生諸君ゆえと思われまします。長い間よく我慢してくれましたが、昨年、今年は大学祭も復活でき、キャンパスに笑顔が戻りました。そしてこ

の春、新たに多くの学生が同窓生となります。どうか温かくお迎え下さいますようお願い致します。

春になると思い出す映画があります。「初恋のきた道」という少し前の中国映画で、国宝級と言われる女優「チャン・ツイイー」が主演。ある若い娘(チャン)が村の学校の先生に恋をします。とても一途で切ない恋です。あるとき先生が遠方に出かけ、必ず帰ると言った先生を、大雪が降りしきる中、ひたすら彼女が路上で待つ場面があります。当時は携帯電話も無く、ただただ信じて待ち続けるという純粋な思いが表現されます。そして暖かな春の日の場面。授業で朗読をする先生の声が朗々と開け放たれた窓から外に響き渡り、村人たちが耳を澄まします。学校が村と、村人たちと一体となり、村人たちが先生の「声」に惹きつけられる印象的なシーンです。

よい先生、理想的な先生とはどんな先生でしょうか。ある同窓生は「いつでも会いたくなる先生」と答えました。それを聞いて私は、ある先生に無性に会いたくなりました。

同窓会総会&ホームカミングデー報告



令和5年8月5日(土)に第36回宮城教育大学同窓会総会が行われた。平成30年からは卒業生と在校生、教職員とが交流を深め、関係強化を図る機会として、ホームカミングデーと合同開催となっている。同窓会総会には1期生の姿もあった。各世代の思い出話から長い大学の歴史を鑑みることができた。同日午後開催されたホームカミングデーでは「どうなっているんですか?『教師の働き方改革』って!」というテーマで、3名の講師と学生によるシンポジウムが行われた。学生から率直な疑問が多く出されたことで、現在の学校現場の様子を知ってもらうことができた。



小学校教員養成課程
保健体育コース
平成4年度卒
実行委員長

堀籠智加枝

教育のバトンを引き継ぐ同窓会に

今年は、参加される学生が興味をもっていることを沼倉先生から聞いていただきシンポジウムを開くことにしました。「部活動地域移行問題」や「教員の多忙」「学校現場の実態」などについてパネラーの方に話していただきました。一方で、「教師は大変だけど、魅力的な職業である」ことも学生に伝えたいということも確認しました。沼倉先生にご尽力いただき、宮城県教育庁保健体育安全課の酒井智紀様、名取第二中学校の本田正晴校長先生、多賀城東小学校の三塚隆洋校長先生の三名をパネラーにお迎えし、記念シンポジウムを開くことができました。酒井様からは部活動地域移行問題について、本田校長先生からは中学校、三塚校長先生からは小学校の様子についてお話しいただきました。



同窓会総会の様子

その後二つのグループに分かれてディスカッションを行いました。「学生のうちに身に付けておく」とよい力は」「子供を見る目を鍛えるには」「保護者対応は大変か」など、知りたいことをどんどん聞いてもらいました。学生さんが積極的に話合いに参加されて、興味深げに話を聞く姿がとても印象的でした。真剣に教育の問題に向き合う姿を見て頼もしく感じました。「教育には未来がある」「教師はすてきな仕事である」ということを伝える機会になっていたら幸いです。運営面で支えてくださった学生課職員の皆様、実行委員を引き受けLINEで企画を立て運営に協力いただいた同級生、ご参加いただいた皆様に御礼を申し上げます。(加美町立鳴瀬小学校勤務)

今まで、大学の同窓会へ参加していなかったが、今年無事喜寿を迎え、定年退職して十七年も経ち、毎日を大過なく生活できるのも宮城教育大学の諸先生方のお世話になったお陰と思い、これを機に現在大学はどうなっているのだろうか、と夫婦で出席することになりました。当日は暑く、どこへ行けば同窓会の会場なのかと不安でしたが、キャンパス入口の女学生の方が親切に受付まで案内してくれました。受付をしようとしたら、私たちの名前が出席者名簿にありませんでした。苦労しながらスマホでやっと申し込んだのに、と思っていたら親切に「当日でもかまいません」ということでやっと安心しました。次は昼食をどうしようかと考え、川内へでも下って摂ろうと思っていたところ、これもとっさの機転



涌谷第二小学校長時代
(平成18年頃)
小学校教員養成課程
理科ピーク
昭和43年度卒

千葉 清一

同窓会に参加して

で親切にも準備していただきました。学生の方々の親切さを受け、きつといい先生になるだろうと思いました。

同窓会の内容については、会長のあいさつから始まり、会計報告等でした。その中で感心させられたことが何点ありました。その一端を述べてみると、会長のあいさつで、「改組による新しい教育学部」の説明でしたが、その人の人間性でしょうか、分かりやすく私の頭の中に自然に入ってきました。議長として議事を進行するまで会長が学長であるということとを分かりませんでした。権威というのは肩書・人格（人間性）により成り立っているもので、往々にして肩書を振り回しがちですが、学長は人格の素晴らしさより出てくる権威そのものであり、それを実践されている先生方より指導を受けている学生たちは、幸福だなあと思いました。

それから、キャンパス内を案内され、ここが自分が学生のころ指導を受けていた研究室（理科実験棟）で、廊下をはさんで向かいの部屋で実験用のマウスを飼っている

たなあ・・・そして一日中顕微鏡とにらめっこしていた当時の様子が思い出され懐かしくなりました。午後ゆつたりキャンパス内を散策したかったです。途中で失礼しました。学生の対応・先生方の学生に対する接し方を間近に拝見し、「これからの子どもたちは幸せだ、宮城県の教育そして宮城教育大学は安泰だ」と安心して帰途につきました。

同窓会に初めて参加して



課程養成教員
教職ピーク
昭和43年度卒
小学校教員

千葉 君子

私は昭和四十四年三月、宮教大第一期生として卒業し、唐桑小学校を皮切りに、小学校二校、中学校五校、計七校、三十五年間勤めました。在学中は教職ピークを専攻し、英語の一級免許を取得し、中学校では英語教師として勤めました。夢の英語教師になれたので、

どんなに苦しくても、辛くても「若さと情熱」で頑張り抜きました。在職中は毎日の課題を乗り越えるだけで精一杯で、我が母校宮教大を振り返る心の余裕はありませんでした。しかし、教育活動を進める上では常に大学の先生方に教えていただいた「真の教育とは何か」を心に刻み込み教育活動に励むことができたのは事実です。

平成十五年五十七歳の時、体調不良と家庭の事情で早期退職し、退職後は今まで自分ができなかった趣味の活動や会活動に励んできました。

令和になりコロナ禍で全ての活動が全面的に停止となり、ただただ家に閉じこもりの生活でしたが、令和五年四月に四年振りでコロナ禍から解放され喜んでいました。

そんな時第三十六回宮教大同窓会の御案内を頂き、私も主人も喜寿だったので記念に参加しよう、同窓生にも会いたい、そんな思いで参加しました。参加者は少なかつたけど、一期生の八鳥さんに五十五年振りで再会でき、とても嬉しかったです。

現職の先生方が多忙の中同窓会

のために献身的に活動されている姿を見て頭の下がる思いでした。

村松会長（学長）が「本学卒業生が教職に就いた時、すぐに役立つ実践力（即戦力）を身に付けられるような教育活動を進めて行きたい。」とお話ししていたのが印象的でした。まさに「五号館改修に見る学び方の進化」に驚嘆しました。その後の「宮教大ツアー」では、キャンパスの案内を楽しく笑顔で説明いただきました。多くの校舎が立ち並び、この五十年で見える程立派になった宮城教育大学を見届けることができ、本当に素晴らしいホームカミングデーでした。同窓会関係の役員の皆様、本当にありがとうございました。



同窓生と学生

ホームカミングデー 記念シンポジウム

テーマ「どうなっているんですか?『教師の働き方改革』って!」

真っ黒なんかじゃない!



小学校教員養成課程
国語コース
平成4年度卒
三塚 隆洋

ここ宮城教育大学を卒業してから三十年。褒められるような学生ではなかった私に、こうして同窓会でお話をさせていただく機会が訪れるとは思いませんでした。

ただ、今こうして幸せな教師人生を歩ませていただいている恩返しのため、教師を目指す若者たちにエールを送るのも悪くないなと思います。力不足とは思いますが引き受けました。

「どうなっているんですか?『教師の働き方改革』って!」をテーマに、シンポジストの一人として参加させていただきました。

世間では教師の仕事の大変さがかりがクローズアップされ、教職

ブラックのイメージが定着する中、学生の皆さんに、どうやって教師の仕事の魅力を伝えようか、あれこれ考えました。出した結論は、現在私が勤めている学校の若手層にアンケートを取り、そのリアルな声も伝えることでした。

若い先生方は、日々悩みながらも、楽しんで子供たちと関わり、満足感のある教師生活を送っていることをデータとして示しました。その後の参加者との活発な質疑からは学生たちのやる気を感じました。少しでも教職のイメージがプラスに変わったら幸いです。

世の中、楽で楽しい仕事なんてありません。でも教師はクラスみたいになんか黒じゃないです。白と黒が半々のシマウマ、いや、かわいらしいパンダぐらいのイメージです。宮教大から次代を担う、時代を彩る、素敵な先生が育つことを心から期待しています。

(多賀城市立多賀城東小学校勤務)

在校生と卒業生



養護学校教員養成課程
平成4年度卒
本田 正晴

宮教大時代の友人から電話があり、中学校の働き方改革の現状について話をしてほしいと依頼を受けました。

いじめ、不登校、学力向上、体力向上などの学校における諸課題とともに長時間過密労働や教員不足による教職員の未配置など、「学校のブラック」として取り上げられています。働き方改革の現状に加え、昔から変わらない学校の魅力や教員のやりがいなども伝えたいと思います。

当日、中学校での業務改善や一人一台端末の活用、部活動などの現状を話しました。途中で小学校と中学校に分かれ、在校生と卒業生でディスカッションをしました。

教員になってよかったことや部活動の地域移行など、参加者の疑問に答える形で会は進みました。自分の将来を考える学生の目の輝きがとても真剣で印象的でした。

今、学校では二十二世紀を生きる子供たちに関わっています。教師は未来をつくる仕事です。子供たちの成長と可能性にいつも感動させられます。教育大学で教員免許を取得しているのであれば、一度は教職の道に進み、子供たちと接してほしいと思います。そして、もし自分に合わないと思えば、自分の力をもっと発揮できる職に変更すればよいと伝えました。

会終了後、一人の学生が私のところに来て「必ず教員になります。」と一言。在校生と卒業生のつながりを大切にしたいと感じた一瞬でした。

(名取市立第二中学校勤務)

ホームカミングデー



小学校教員養成課程
体育コース
平成8年度卒
酒井 智紀

沼倉先生から、「ホームカミングデーの記念シンポジウムでシンポジストをお願いしたい。」との依頼がありました。「教員の働き方改革」がテーマとなるため、今話題の部活動地域移行について、現

話を話してほしいとの内容でした。現在、私は、宮城県教育庁保健体育安全課に所属しており、部活動地域移行の担当者として、ガイドラインの作成や県内市町村への説明などを行っています。教職を目指す学生に少しでも役に立てればと思い、お引き受けすることとしました。

今回、最も心に残ったことは、今の学生たちの物事に真摯に向き合う姿勢です。当日、司会を務めていただいた加藤凌空さん、加藤羽菜さんをはじめ、実行委員の学生たちは、事前の打ち合わせや当日の運営など、シンポジウムという新たな取組にもかかわらず、自分の考えをしっかりと持って行動する姿がとても頼もしく感じました。そして、自分の学生時代を振り返り、恥ずかしくもなりました。

教員の労働環境ばかりがクローズアップされ、なり手不足が叫ばれている昨今、このようなすばらしい若者たちが教員を目指してくれていることに感謝です。

志のある学生が、安心して学校現場に立てるよう、私にできる「働き方改革」に取り組んでいこうという気持ちが強くなりました。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。
(宮城県教育庁保健体育安全課勤務)

同窓会を終えて



中等教育専攻
言語・社会系教育コース
国語 2年
加藤 凌空

今回の同窓会は三人の教育関係の方々をお呼びして、前半は教育現場の現状についてのお話を聞き、後半は学生、同窓生側が質問するなどして活発な交流が見られました。私は同窓会において司会進行を務めました。双方のやり取りが有意義なものとなるように進行する難しさを感じましたが、最後までやりきることができました。

また、私自身が部活動の移行問題に関心があり、詳しくお話を伺うことができました。今まで以上に教育現場に関心を抱くこととなりました。今後教育について考える際の参考にしていきたいです。同窓会という場において、同窓生の方々とつながる機会をいただけて幸いに思います。今後も同窓会を継続し、同窓生との交流を深めていきたいと思っています。

ホームカミングデー



特別支援教育専攻
1年
加藤 羽菜

今回の会は教員を志望する私にとって、具体的な理想像や働き方を考える非常に有意義な時間となりました。

記念シンポジウムでは、三人のシンポジストの方々にそれぞれ小学校、中学校、部活動の項目に分かれてお話しいただきました。実際に現場の生の声を聞いて、変化している教員の働き方について知ることができました。またグループディスカッションでは、参加された現役の先生方からも子どもとのコミュニケーションの取り方や、学級経営についてのお話を聞くことができ、非常に充実した話合いとなりました。

また宮教大ツアーも楽しんでもいただき、学生として嬉しかったです。今後もこのような機会を大切にしながら、今回吸収したことを活かして充実した大学生活を送りたいと思います。

令和6年度（第37回）同窓会総会案内（予定）

令和6年度（第37回）の同窓会総会は下記の要領で開催されますが、日程は未確定なので、最新情報をwebページでご確認ください。
皆様のご参加をお待ちいたしております。

記

日時 2024年7月27日(土)または8月3日(土)午後10時30分
会場 宮城教育大学

実行委員 / 平成5年度、平成15年度、平成25年度卒業生

同窓会事業・会計・予算

令和4年度 庶務報告

- (1)総会開催 令和4年8月6日 宮城教育大学
 (2)理事会開催 令和4年5月20日 宮城教育大学
 (3)総会実行委員会設立平成3年度、平成13年度、平成23年度卒業生担当
 (4)会報「山にありて」34号発行 2,500部発行。令和3年度より電子版にアクセスしていただく方法に変更。紙媒体は入学生、卒業生、宮城県内の学校・教育委員会等に発送。
 (5)学生自主活動支援
 学生の自主活動支援金として、1回目5団体、2回目6団体、合わせて11団体に合計294,105円を支援しました。
 支援した団体名(申請のあった順)
 女子ハンドボール部、陸上競技部、男子サッカー部、吹奏楽部、女子バスケットボール部、体操部、男子ハンドボール部、硬式野球部、ソフトテニス部、connection CREW、男子バスケットボール部

令和4年度 会計報告

- (1)会計期間 令和4年4月1日から令和5年3月31日 (3)積立金 令和3年度末 5,393,772円+令和4年度末 392,685円= 5,786,457円
 (2)収支概況 収入総額 2,886,027 (4)財産状況 (令和4年3月31日現在) 現金・預金合計 5,476,457
 支出総額 2,493,342 現金 11,950
 差引残額 392,685 → 積立金へ 預金 184,507 (ゆうちょ銀行 普通預金)
 5,280,000 (ゆうちょ銀行 振込用口座)

(5)補足

- *会費収入について、令和3年度318名に対し令和4年度は322名で4名(32,000円)増となりました。
 *平成29年度同窓会総会での決定に基づき、平成29年度9月より、同窓会業務の一部を宮城教育大学に委託しています。
 *卒業記念品としてクリアファイル(5色)を、令和5年3月の学位記授与式にて学部卒業生および大学院修了生に贈呈しました。

1. 収入の部

項目	令和4年度予算額	令和4年度決算額	比較増減額	備考
1. 前年度繰越金	0	0	0	
2. 会費	2,400,000	2,576,000	176,000	322名×8,000円
3. 利子	0	27	27	
4. 積立金繰入金	310,000	310,000	0	
合 計	2,710,000	2,886,027	176,027	

2. 支出の部

項目	令和4年度予算額	令和4年度決算額	比較増減額 (△減)	備考
1. 事務費	38,000	25,224	△ 12,776	
(1) 事務費	8,000	3,146	△ 4,854	
(2) 通信費	28,000	20,734	△ 7,266	
(3) 人件費	0	0	0	
(4) 会議費	2,000	1,344	△ 656	
2. 事業費	2,519,000	2,460,118	△ 58,882	
(1) 総会費	50,000	25,860	△ 24,140	
(2) 会報発行	226,000	205,210	△ 20,790	山にありて 34号 2,500部
(3) 会員情報管理費	856,000	905,618	49,618	データ管理、会報発送
(4) 学生活動援助	300,000	294,105	△ 5,895	2回、計11件分
(5) 広報費	125,000	42,845	△ 82,155	新入生用入会案内
(6) 事務局業務委託費	660,000	660,440	440	
(7) ホームページ作製費	302,000	326,040	24,040	
3. 雑費	0	8,000	8,000	
4. 予備費	53,000	0	△ 53,000	
5. 寄付	100,000	0	△ 100,000	
小 計	2,710,000	2,493,342	△ 216,658	
欠損金	0	0	0	
合 計	2,710,000	2,493,342	△ 216,658	

【特別会計】

3. 積立金の部

項目	令和4年度当初	令和4年度末	比較増減額 (△減)	備考
1. 積立金	5,393,772	5,786,457	392,685	令和4年度当初 5,393,772円+令和4年度末差引総額 392,685円= 5,786,457円

令和5年度 事業計画

- (1)総会開催 令和5年8月5日 対面方式 (4)会報「山にありて」35号発行
 (2)理事会開催 令和5年5月19日 宮城教育大学 (5)学生自主活動支援
 (3)総会実行委員会設立 平成4年度、平成14年度、平成24年度卒業生担当

令和5年度 予算

- (1)会計期間 令和5年4月1日から令和6年3月31日
 (2)収支概況 収入総額 2,617,526 積立金 5,786,457
 支出総額 2,617,526 残 額 5,786,457

* 予備費を計上する目的

予算執行の基本方針は当該年度の収入の範囲で活動(支出)を計画します。但し、当該年度中に予想を超える事態が発生(例えば震災)した場合に備えて「予備費」と計上します。10万円を超える予備費の執行に当たっては臨時理事会を開催して決着します。

【一般会計】

1. 収入の部

項目	令和4年度決算額	令和5年度予算額	比較増減額 (△減)	備考
1. 前年度繰越金	0	0	0	
2. 会費	2,576,000	2,560,000	△ 16,000	320名×8,000円
3. 利子	27	0	△ 27	
4. 積立金繰入金	310,000	57,526	△ 252,474	
合 計	2,886,027	2,617,526	△ 268,501	

2. 支出の部

項目	令和4年度決算額	令和5年度予算額	比較増減額 (△減)	備考
1. 事務費	25,224	39,031	13,807	
(1) 事務費	3,146	9,359	6,213	
(2) 通信費	20,734	28,172	7,438	切手代、HP用レンタルサーバー代
(3) 人件費	0	0	0	
(4) 会議費	1,344	1,500	156	理事会湯茶
2. 事業費	2,460,118	2,378,495	△ 81,623	
(1) 総会費	25,860	50,000	24,140	講師謝礼
(2) 会報発行	205,210	205,210	0	山にありて 35号 2,500部
(3) 会員情報管理費	905,618	1,120,000	214,382	データ管理・フォーマット変更、会報発送
(4) 学生活動援助	294,105	300,000	5,895	サークル活動支援
(5) 広報費	42,845	42,845	0	新入生用入会案内、卒業記念品
(6) 事務局業務委託費	660,440	660,440	0	
(7) ホームページ作製費	326,040	0	△ 326,040	
3. 雑費	8,000	0	△ 8,000	
4. 予備費	0	100,000	100,000	
5. 寄付	0	100,000	100,000	
小 計	2,493,342	2,617,526	124,184	
欠損金	0	0	0	
合 計	2,493,342	2,617,526	124,184	

【特別会計】

3. 積立金の部

項目	令和4年度末	令和5年度末	比較増減額 (△減)	備考
1. 積立金	5,786,457	5,728,931	57,526	

今年度

定年退職教員

この春、お世話になった二名の先生方が定年を迎えられ、退職されます。
在学期間中の思い出や、宮城教育大学の学生に対する思いを記していただきました。

退職を迎えての思い



美術教育運営部会
教授
虎尾 裕

平成十年四月に美術教育講座の教員として着任して以来、二十六年の歳月が経過しました。着任当時、三十代終盤の年齢で。血氣盛んな頃だったかと思ひ出されます。専門が美術教育の「造形」であり、立体制作が主です。とにかく作品を作り、表現するために必要なスキルや考え方の指導に徹してきました。私自身は、石を素材とする現代彫刻の表現が専門であり、一年中屋外で肉体労働に従事している、石を彫る職人さんのような人だと思われていました。

五年に竣工した表現系の建物があり、なぜか音を出す分野が集まっていました。その一階に立体工房があり、着任以来、学生は様々な素材で立体作品を表現して、巢立っていました。おそらく、教育系の大学では、国内屈指の環境と設備を有していると思われます。当時から学生には、誰もやったことのないことを、いっとう最初にやるようによく言っていました。いわゆるパイオニアとして第一号になれと。果たして教員として、またその他の教育機関などにおいても、そのように実践している卒業生が見受けられます。とにかく、教職に就いても、忙しい時間をぬって、作品制作に悪戦苦闘しながら表現を続けて欲しいと思います。最後に、長い間、支えてくださった教職員の皆様方には感謝を申し上げると共に、健康で益々活躍されますことをお祈り申し上げます。御礼の挨拶とさせていただきます。

学びを教える難しさ



教職大学院
技術教育運営部会
教授
水谷 好成

平成六年に宮城教育大学に着任して三十年。電気・コンピュータ制御の教育研究として教育用ロボット梵天丸や各種LED教材を開発し、授業やワークショップで継続的に実践してきました。特別支援・家庭科・理科・防災・音楽・美術教育など、多様な教科横断的研究を多くの先生方や学生達と共に行ったのは楽しい思い出です。異分野の「学び」は、更に他の分野へ挑戦する基盤になりました。勉強や学習の先にある「学び」は、好奇心や知る喜びがある人間しかできません。学びの楽しさを経験させる教育を目指しました。しかし、教員と学生の思いは必ずしも一致しません。「馬を水辺に連れて行けても水を飲ませることはいできない」という諺のように、

学習環境を整えても、学ぶかどうかは学生次第です。正解答で合格するのが目的でなく、本質を理解した上で問題が解けるようになることが重要であるとかわかってもらいたかったのですが、指示した勉強や学習の意図はなかなか伝わりません。わかることを目指す学習指導は相対的に難しく、頑張っても勉強しなくても単位を得やすい授業に比べて不評になりがちです。学生に応じて学習内容を工夫したつもりでも、なかなか期待した反応は得られませんでした。わかるまで学習して学ぶ楽しさに気づく学生は少数で、多数の学生には私の学習指導の意図はうまく伝えられなかったように思います。学びの楽しさを教える授業をできたか採点すれば、A評価は難しいと思います。卒業研究や大学院の学習指導を受けた学生、教育現場における指導経験をえた学生達から、学生時代にもっと勉強しておけば良かったと言われることはありました。時間を経て理解される教育ができていたとして、総合的にBプラスの評価をしてもらえらるとしたら嬉しく思います。

事務局だより

二〇二四年一月一日に発生しました「令和六年能登半島地震」により犠牲となられた方々に謹んでお悔やみ申し上げるとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。

本学にも新潟県、富山県、石川県、福井県出身の学生が二十一名在籍していましたが、幸いにも全員の無事が確認されました。正月に同期の友だちや先輩と会う機会がありました。その先輩も北陸地方に住む同期生と連絡が取れたということで、胸をなでおろしていました。しかし、同窓生の中には大きな被害を受けた方がおられるかもしれません。被災地域の皆様の安心と安全、そして日常生活が一日でも早く戻りますことを心よりお祈り申し上げます。

さて、八月に開催した同窓会総会では、平成四年度卒業の実行委員の皆さんと、現役学生の実行委員の協力をいただき、盛会のうちに無事終えることができました。総会内、終了後のアンケートにおいていくつかご意見をいただきました。

したので、今後の取組に活かしていきたいと思っています。

昨年作成した宮教大同窓会のホームページですが、住所変更などのデータ更新も行えるようになり、ご活用いただいております。また、フェイスブックページも現役学生の協力を得ながら、適宜更新しておりますので、ぜひご覧いただき、同窓生同士で話題にしていただけなら幸いです。

最後になりましたが、同窓会活動は皆さまからの会費によって成り立っています。未納の皆さまにおかれましては、ご協力くださいますようお願いいたします。末筆ながら、同窓生の皆さまの日ごろのご支援に感謝いたしますとともに、皆さまのご安全ご健康を心よりお祈り申し上げます。

事務局長 沼倉 学
(平成九年度卒)

同窓会費納入先

郵便振替

022402-34558

宮城教育大学同窓会
同窓会費：八、〇〇〇円（終身会費）

恩師訃報

立原 慶一 名誉教授（美術教育講座）
雪江 美久 名誉教授（社会教育学）
が、ご逝去なされました。ここに謹んで哀悼の意を表します。
令和五年三月 十一日
令和五年九月二十五日

編集後記

同窓会総会&ホームカミングデーに参加してきました。コロナ禍により、2年間対面での同窓会ができず、昨年度ようやく実施することができるようになりました。コロナ前と比べると参加者は少なくなりましたが、それでも同窓生と学生のつながりが強く感じる会であったと思います。同窓会総会では1期生の方が3名参加されておりました。当時の大学の様子をまるで最近のことのように鮮明にお話しなさっていたことが印象に残りました。

午後からのホームカミングデーでは、3名のパネリストの先生方から学生たちに向けて、学校現場のリアルな現状が語られました。君たちには同窓生となる先輩がたくさんいるから、安心して社会に出ていきなさいという温かいメッセージを送っていただきました。

こうして、各世代が大学を愛し、誇りに思い、後輩へとバトンをつないできたことが伝わる同窓会となりました。次年度は皆様にもぜひご参加いただき、改めて母校の良さに触れてみてはいかがでしょうか。

さて、今号を発行するにあたり、実行委

員長の堀籠様をはじめ、快くご寄稿いただいた多くの方々に心より感謝申し上げます。同窓会のホームページにおいて、28号以降の同窓会報をご覧いただくことができます。同窓生同士つながりをまもることができるページとなっています。感想などお寄せいただけますと幸いです。次号もどうぞよろしくお願いいたします。

編集長 早坂 美幸
(仙台市泉図書館勤務)

【編集委員】

橋本 俊一	(昭和 48 年度卒)
末永 精悦	(昭和 53 年度卒)
鈴木 朝二	(昭和 53 年度卒)
加藤 良樹	(平成 6 年度卒)
野中 映里	(平成 10 年度卒)
近藤 ゆき	(平成 13 年度卒)
早坂 美幸	(平成 15 年度卒)
千葉 廣	(平成 24 年度卒)

同窓会報が Web ページに移行しています

第32号から同窓会報はWebページの閲覧になりました。

宮城教育大学Webページのメニューからご覧ください。

URL▶ <https://sites.google.com/staff.miyakyo-u.ac.jp/yamaniarite/home>



同窓会ならびに会報についてのお問い合わせ Eメール: alumni@grp.miyakyo-u.ac.jp